議事録

<table>
<tr><td>会議の名称</td><td>（番号）
１－１７</td><td colspan="3">令和７年度第１回墨田区資源環境審議会</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="4">令和７年７月４日（金）１０時００分から１１時３０分まで</td></tr>
<tr><td>開催場所</td><td colspan="4">第１委員会室（区役所１７階）</td></tr>
<tr><td>出席者数</td><td colspan="4">［委員］　萩原なつ子（会長）　日置雅晴（副会長）　見山謙一郎（副会長）
江尻京子　三輪正幸　天野純子　戸屋輔　神谷守　廣田健史　井上佳洋
宇仁菅伸介　山本耕平　小木曽清三　平田一真　真鍋文朗　横井貴広
吉野潤一　はねだ福代　甲斐まりこ　計１９名
［事務局］資源環境部長　環境政策課長　環境保全課長　すみだ清掃事務所長
環境政策課主査
［区職員］墨田清掃工場長 環境政策課職員 環境保全課職員 すみだ清掃事務所職員</td></tr>
<tr><td>会議の公開
（傍聴）</td><td>公開（傍聴できる）　部分公開（部分傍聴できる）
非公開（傍聴できない）</td><td>傍聴者数</td><td colspan="2">１人</td></tr>
<tr><td>議題</td><td colspan="4">１　第三次すみだ環境の共創プラン策定に係る基本的な考え方について
２　第四次墨田区一般廃棄物処理基本計画（中間改定）に係る基本的な考え方について</td></tr>
<tr><td>配付資料</td><td colspan="4">資料１（表面）第一期墨田区資源環境審議会委員名簿
（裏面）審議会関係条例・規則
資料２　第三次すみだ環境の共創プラン策定に係る基本的な考え方について（案）
資料３　第四次墨田区一般廃棄物処理基本計画（中間改定）に係る基本的な考え方について</td></tr>
<tr><td>会議概要</td><td colspan="4">１　開会
２　区長挨拶
令和７年度第１回墨田区資源環境審議会の開催に際し、区長から挨拶があった。
３　委員の紹介
環境政策課長から委員の紹介があった。
４　会長・副会長の選出
委員の互選により、会長は萩原なつ子氏に、副会長は日置雅晴氏、見山謙一郎氏に決定した。
５　議事
議題１及び２について、資料２及び３に基づき、事務局から報告を行った。</td></tr>
</table>

	【議題１の報告に対しての質疑応答、意見】 （委　員） 　４ページの望ましい環境像として、「一人ひとりが未来を創るゼロカーボンシティすみだ」という案があるが、「ゼロカーボンシティ」という言葉をきちんと知っている人は２割くらいしかいないのではと思う。誰もが分かりやすい言葉を使う、もしくは注釈をつけるなど配慮してもらえるとよい。 （委　員） 　「ゼロカーボンシティ」は持続可能な社会を目指すための手段であり、目指す目標としては、これまでの「持続可能な」という言葉の方が分かりやすい。第三次プランで変える必要があるのかなと感じた。ここで打ち出す言葉に注釈をつけるのはあまりよくない。聞いただけで普通の人が分かる言葉がよいと思う。 （委　員） 　共創プランにも関わらず、第二次プランでは「みんなで作る」だったのに、第三次プランでは「一人ひとり」になってしまった。「みんな」の方がよかったのでは。 （委　員） 　環境問題は誰もが感じているので、一人ひとりの行動変容を促すことから、「みんな」から「一人」になったのかなと思う。ぜひ区民の方が、環境を自分ごととして捉えられるようにしてもらえればと思う。 （委　員） 　「みんなで作る」よりも、「一人ひとりが」の方が曖昧にならず、あなたも私もやらなければならないと訴えられる。一人ひとりの努力があってこそ共創プランが生まれるということだと思う。ただ、「ゼロカーボンシティ」という言葉は、「持続可能」の方がよいのでは。 （委　員） 　「一人ひとり」が責任を持って行いながら「みんな」へ、ということを表現したいということかと思う。そのような代案が出てくるといい。「ゼロカーボンシティ」よりは「持続可能な」の方が、いいかなという気もする。 （委　員） 　個人的には「ゼロカーボンシティ」の方が、「持続可能」よりも具体的で分かりやすい気がする。 （委　員） 　「持続可能な」も最初はなかなか分かりにくく、今回あえて、「ゼロカーボンシティ」って何だろうと、理解してもらうということもあるかもしれない。 （委　員） 　ガス事業者なので社内でも、「脱炭素」や「ゼロカーボン」など、どの言葉を使うと伝わるかを議論してきている。参考までに、社内のプロモーションでは、受け手に対しどのように言うと共通言語になるのかなと寄り添って言葉を決める。「脱炭素」「ゼロカーボン」「持続可能」など、どの言葉が最も伝わるかで、最終的には判断することになると思う。 （委　員）

	この部分は今日決めないといけないのか。 （事務局） そうではなく、今日はいろいろな意見を伺って、また改めさせていただく。 （委　員） 「すみだゼロカーボンシティ 2050 宣言」をしているのであれば、言葉の説明は必要だが、「ゼロカーボンシティ」という言葉を使っていかないといけないと思う。 （委　員） いろいろな意見があったので、それを踏まえて検討いただければと思う。ただし、すべて盛り込んで分からなくなるよりは、シンプルイズベストなものをお願いしたい。他の意見はどうか。 （委　員） ４ページの、循環型社会の実現の成果指標で、家庭系食品ロス量が指標に入っているが、事業系は入らないのか。 （事務局） 一般廃棄物処理に関わるところで、墨田区が管轄するのはあくまで家庭系廃棄物であるため、成果指標も家庭系のみとしている。 （委　員） 区の要綱で、大きなビルには雨水処理設備設置が義務となっているほか、助成金を使って天水尊など雨水設備を設置しているが、設置して 30、40 年が経過し、これらの雨水処理設備が実際に使われているかどうかが分からない。雨水総貯留容量という指標だけでなく、実際に使われているかも指標にしてみてもいいと思う。 （事務局） 雨水総貯留容量は前計画から引き続き、災害に強いまちづくりのため、都市型洪水を防ぐための指標として設定している。実際に使われているかどうかを指標に掲載するには検討が必要だが、現在学校等に設置されているものについて、個別に調査を進めているところである。 （委　員） 雨水利用は墨田区の特徴的な取組であるが、時間が経過していて実態が分からない。我々市民の会だけでは実態把握は難しいため、そこは行政にお願いしたい。実態を踏まえ、IT などを使って、大雨などの場合は事前にタンクの水を抜いてもらうように周知する等、洪水時に役立つようなネットワーク構築ができると望ましい。 （委　員） 墨田区は緑被率が 10%くらいで、都内平均の半分くらいしかない。ただし、水辺も含めたみどり率は 20%くらいになる。みどり率という水辺も含めた指標にするのは、墨田区らしくてよい。今回の審議会から、資源分野と環境分野が合わさったので、環境、特に生物多様性の部分の取組が浅くならないようにしてほしい。千葉大学でも、墨田区内で活動しているので、緑の部分に携わっていきたい。 （委　員） ４ページの成果指標に関して、現状はどうなっているのか。具体的な数値データが資料に含まれているか確認したい。

	（事務局） 　今回の資料は一部抜粋して記載しており、実際の計画書については、過去５年から遡って長期的なスパンで、推移を見せていく予定である。 （委　員） 　基本目標１で、再エネの導入に加えて、区民の方のやりやすい脱炭素として、省エネのようなキーワードを掲載して、区民の行動変容につなげていけるといい。また、基本目標６で、ボランティアの登録者はほぼ横ばいとあるが、ボランティアだけに頼るのではなく、環境活動をビジネスとして成立させる仕組み作りができるといい。 （委　員） 　高齢者や認知症の人、経済的に困っている人も増えており、計画のどこかに、社会的弱者に対する配慮をしつつ環境対策をする、ということを入れてもらえるとよい。 【議題２の報告に対しての質疑応答、意見】 （委　員） 　２ページの区民１人１日あたりの収集ごみ量だが、プラスチックの収集量と削減量は、およそイコールなのか。もしイコールであれば効果が大きいと思うが、他の要因があるならば、それを探ってほしい。 （事務局） 　令和６年度のごみ量は、まだ速報値であり今回は示していないが、燃やすごみが令和５年度に比べ約 3,300 トン減少、プラスチック回収量は約 2,040 トンとなるので、大きな割合を占めていると言える。 （委　員） 　サーキュラーエコノミーという言葉が出ているが、墨田区らしさを考えたときに、どのような意味合いになるのか。 （事務局） 　今やっている事業であてはまるのは、ペットボトルのボトル to ボトル事業である。アサヒ飲料等と連携して、ペットボトルをリサイクルして、再びペットボトルに戻す事業を昨年度から行っている。科学的な手法でリサイクルしているので、品質がなかなか劣化しにくい。このような取組も墨田区らしさの一つであると考えている。 （委　員） 　令和６年にリチウム電池の回収を開始したとあるが、何か所くらいで行っているのか。これに関して川口市では火災事故があり、自治体としての動向を知りたい。 （事務局） 　昨年４月からリチウムイオン電池の専用回収箱と、リチウムイオン電池を含む小型家電回収箱を、公共施設など区内 15 か所に設置した。 （委　員） 　最近の小型扇風機などは、電池が入っていることに気がつかないこともある。分別が必要ということを、どのように区民の方に PR していくか。また、サーキュラーエコノミーについて行政が直接できることは少なく、企業がやっている情報を集めて、それを区民に PR するなど相互調整するのが、一番重要な役割である。その辺りを計

	画に盛り込んでほしい。 （委　員） 　３ページのプラスチック分別協力率の指標はとてもよいが、プラスチックごみを出している人はまだ少ないと思う。知らないからなのか、面倒だからなのかを調査して、分別しない人をどのように動かしていくか。また４ページの施策の方向４の③環境学習などによる人材育成の推進に関して、子どもや若い人たちは環境意識が高い人も多いので、そうでない人たちにどう訴えていくのか。 （事務局） 　環境学習は子どもから高齢者まで幅広い世代をターゲットにしているが、一番はやはり子どもだと考える。プラスチックの分別回収のときもそうだったが、子どもに普及啓発すると両親に話してくれる。その意味でも子どもはターゲットにしたい。 （事務局） 　子どもは吸収力が高いので、小学４年生へ副読本を配布したり、小中学生向けの環境学習ツールをホームページ上で運用し、環境教育を行っている。その一方で、環境の取組は全世代でやっていく必要がある。６月に実施した環境フェアのイベントや、区民会議での活動等、様々な施策を展開して環境教育に取り組んでいきたい。 （委　員） 　プラスチック分別収集とあるが、プラスチックの中身というのは、区ではどういうものを指しているのか。 （事務局） 　容器包装プラスチックと、製品プラスチックを一括回収している。 （委　員） 　２ページ下の計画前期の取組状況に関し、区は SDGs 未来都市として環境の取組をしており、これをもっと区民に発信して知ってほしいと思う。リチウムイオン電池の危険性や回収場所について、ホームページには書いてあるがなかなか浸透していないので、情報発信について、この会議などで考えていけたらと思う。 （委　員） 　その他の委員の方の意見はどうか。 （委　員） 　先ほど意見交換した中で、同意見で共感した。 （委　員） 　４ページの施策の方向４の①リサイクル過程の「見える化」の促進とは、具体的にどのようなものか。 （事務局） 　昨年度からプラスチックを資源として回収しているが、リサイクルのやり方が頻繁に変わり、区民の方に流れを示せなかった。今後はリサイクルの過程をもっと見せて、分別意識を持ってもらおうという意図である。 （委　員） 　環境教育では難しい言葉を使うと理解しにくいこともあるが、若い人は逆に英語ができたりと、年代層によって環境問題への意識は違う。高度成長期の公害の頃と比べ

	て環境は改善しており、その意味で教育は重要だ。 （委　員） 　サーマルリサイクルをやめたことで、工場がどうなるのかと心配していたが、それも心配がないということだった。第１次計画から関わっているが、当初は、安全・安心・くらしというテーマがあり、２次計画でなくなりかけたので入れてもらった。中間まとめが５年ごとにあり、それで現行制度を変更していく状況がある。第３次計画についても、３、４年目からどのような形で現実的になっていくのかなと思う。 （委　員） 　これだけごみが減っているということが、区民の方にどれだけ伝わっているのだろうか。目標を遥かに上回るペースでごみが減っており、区民の方がプラスチックごみ回収などに協力してくれた成果だと思う。それが伝わらないと、区民の方が意義や達成感を感じにくい。例えばごみ収集場所に、こんなにごみが減っています、というような何かを貼るなどして、成果を目に見える形にしてもらえたらと思う。 （委　員） 　すみにゃーるで示すとか面白そう。 （委　員） 　ごみを回収している人も大変だと思うので、頑張ってやっているということを区民の方にも何かの機会に伝えてもらえるといい。昨年、墨田区と千葉大学の社会人向けスクールに参加し、グループワークでごみ削減をテーマにした。施策の方向４の②デジタル技術を活用したより効果的な情報発信にもつながるが、ごみを分別したり環境に良いことをすることで、スマホでポイント制のように還元するという案を出した。武蔵野市はすでに導入済で、見学に行ったが勉強になった。また、環境学習や環境フェアの場に、身体的な理由から参加できない人もいる。その辺りをどのようにカバーしたらよいのかも考える必要がある。 ６　その他 　　事務局から、次回審議会の開催時期等について説明があった。 ７　閉会
所　管　課	資源環境部環境政策課環境政策担当　（５６０８－６２０９）